

# 日本書道史

## 第1講 「日本書道史への視点」

住川 英明 (岐阜女子大学)

# 第1講 「日本書道史への視点」

## 【学習到達目標】

- 書道史研究の特色について、概括的に説明することができる。
  - 作品の鑑賞の方法について、事例にもとづいて、具体的に説明することができる。
-

# 第1講 「日本書道史への視点」

## 1. 歴史研究の方法とは

- 「仮説」にもとづく、事実相互の連関（つながり）に加える「解釈」によって、歴史は一つのまとまった全体を形成する。
- 「事実」とみられるものは、つねに書き換えられる可能性があり、「解釈」はつねに異なりうる可能性がある。

# 第1講 「日本書道史への視点」

## 2. 美術史における「様式」の考え方

- ある書きぶり（書風）を，書かれている「内容」からは独立した，一つの「形式」とみて，その書きぶりに特徴的な「様式」を探っていく。
- 私たちには，まず書の歴史を「様式史」として捉え直すことが求められている。

# 第1講 「日本書道史への視点」

## 3. 鑑賞の3つの方法

### ■ 直感的鑑賞

初発の印象によって、作品の風趣を把握する。

### ■ 分析的鑑賞

造形の細部にわたって執拗に見て、分析する。

### ■ 総合的鑑賞

時代背景や筆者の個性、内容などを踏まえて、総合的に味わう。

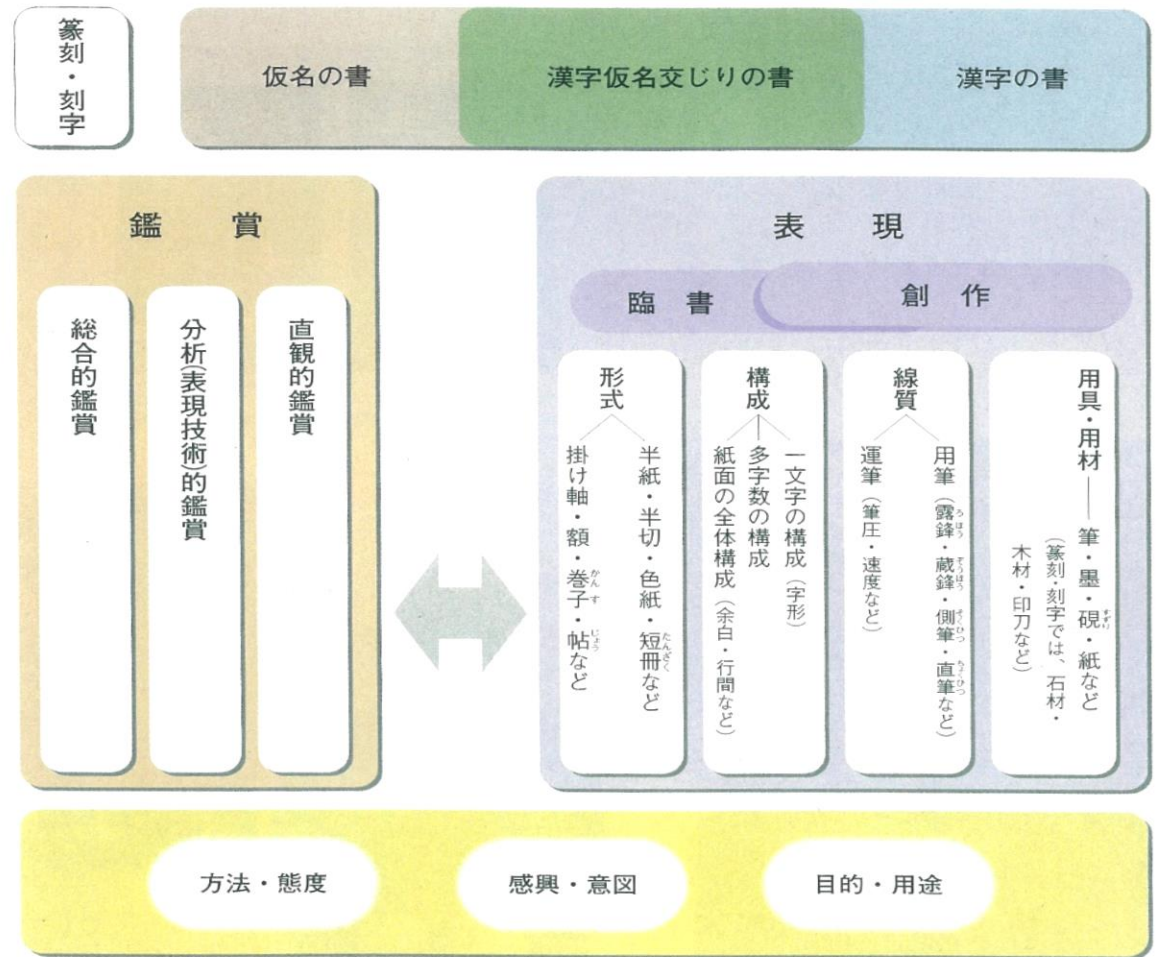
---

# 第1講 「日本書道史への視点」

## 芸術科書道の構造

### ■ 鑑賞の位置づけ

- 作品の価値やその根拠
- 生活や社会における書の効用
- **線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わり**
- 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化
- 漢字の書体の変遷，仮名の成立等
- 書の伝統的な鑑賞の方法や形態

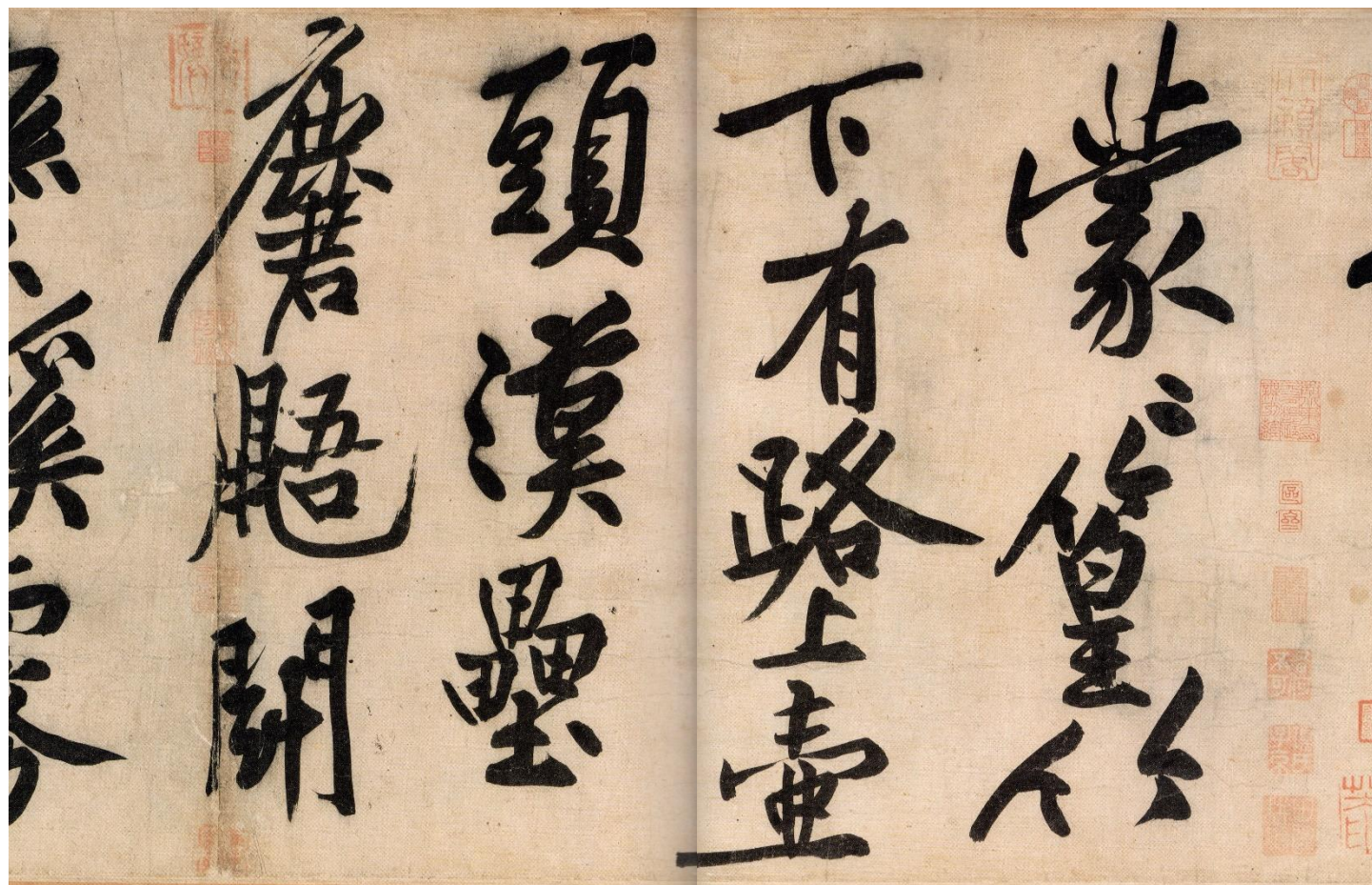


# 第1講 「日本書道史への視点」

## 4. 高村光太郎の鑑賞に学ぶ

- 「黄山谷について」高村光太郎（1883－1956）が、1955年（昭和30年）3月に発表したもの。
- 鑑賞の3つの段階を踏まえている。
- 言語表現の一つひとつが的確で、理解しやすい。

# 第1講 「日本書道史への視点」



黄庭堅 《伏波神祠詩卷》 (部分)



# 課題

1. 書道史研究の特色について、下記のキーワードを使って、まとめなさい。  
「仮説」「様式」「臨書」
2. 高村光太郎の鑑賞文（鑑賞1～3）について、  
3つの鑑賞の方法：直感的鑑賞・分析的鑑賞・総合的鑑賞を当てはめて、考察しなさい。

# 第1講 「日本書道史への視点」

## 【学習到達目標】

- 書道史研究の特色について、概括的に説明することができる。
  - 作品の鑑賞の方法について、事例にもとづいて、具体的に説明することができる。
-

# 日本書道史

## 第1講 「日本書道史への視点」

住川 英明 (岐阜女子大学)